

戦争を忘れないで語りつこう

第7回 **こまえ平和フェスタ 2011**

向き合おう生命(いのち)、つなげよう世界

「こまえ平和フェスタ」へ 今年もどうぞ お出かけください!

2011年 8月21日(日) 午後1時半～4時半

姜 尚中さん 講演

3.11 以後の平和と共存
—国境を超えた安全共同体を目指して

今年は、在日コリアンで政治学者の

姜 尚中さん(東京大学大学院教授)をお招きして 上記の演題で講演していただきます。

姜さんは、政治学者として数々の著作を著される一方で、テレビの討論会などにも積極的に出演され、東アジアの平和の問題などについて深い識見を語ってこられました。

また、在日韓国人としての自らの出自に悩んだ青春から現在に至るまでの自伝的な著作も(「在日」や「オモニ」など)出版されています。

東日本大震災のあと、福島に入れ震災の傷跡を目の前にして考えられたことから、東アジアの国境を超えた安全共同体のあり方について語ってくださると思います。

＜協賛金のお願い＞

当会は、「こまえ平和フェスタ」の開催当初から関わり、実行委員会の中心となって活動してまいりました。このフェスタが継続してこられましたのも当会の皆様の様々なお力添えがあつてのことと感謝いたしております。

昨年より 入場料を「100円以上」いただくことにより予算の面で多少ゆとりが出てまいりましたが、事前にいただく(一口千円)の協賛金に負うところも大きいのが実情です。何かと出費の多い折柄、協賛金のお願いをすることは、心苦しいのですが、一口でもお協力いただければ幸いです。

下記の口座に「こまえ平和フェスタ協賛金」と書いてお振込みいただくか、お近くの世話人にお渡しくださるようお願い致します。

郵貯銀行 00160-8-607928

口座名：平和憲法を広める狛江連絡会

ミュージカルCOCO～

(市内ミュージカル劇団)

和泉児童館 も初参加

今年は、新しく二つのグループがフェスタに参加されることになり、舞台いっぱいの力強い踊りや演技を披露してくれることになっています。子供たちのエネルギーから「命」の大切さをかみしめていきたいと思ひます。

＜当日スタッフのお願い＞

当日のスタッフとしてお手伝いいただける方は、ぜひご連絡ください。

受付係、会場係、警備・誘導係など多くの人員が必要です。宜しくお願ひいたします。(小俣 記)

〈未来世代にのこすもの—私たちは何を「決意」したか〉

6月4日日比谷公会堂で毎年恒例の講演会が行われ約2,000人の人たちでいっぱいになった。4人のメンバーが講演を行ったが登場順に要旨を報告したい。



鶴見俊介氏は「受身の力」という言葉で、2つの原爆と第5福竜丸の被曝を「受けた」日本のすべきことを話した。日本は何も答えていない。二重被爆者（広島で被爆し、帰郷した長崎で再び被爆）の言葉「もてあそばれたような気がするね」から日本は出発すべきだった。ここから「受身の力」で世界に訴えていくのに加えて「不服従の用意がある」ということを示さなければならない。放射能の象徴である「ゴジラ」の可愛いマスコットをバッグに潜ませてアメリカ男性と歩くのもよいかもしれない。

郷した長崎で再び被爆）の言葉「もてあそばれたような気がするね」から日本は出発すべきだった。ここから「受身の力」で世界に訴えていくのに加えて「不服従の用意がある」ということを示さなければならない。放射能の象徴である「ゴジラ」の可愛いマスコットをバッグに潜ませてアメリカ男性と歩くのもよいかもしれない。



澤地久枝氏は「揺れながら、原発を止める意思表示をしようと思った」と、話し始め、あの若々しい声とエネルギー溢れた語り口で終始聴衆を引きつけた。

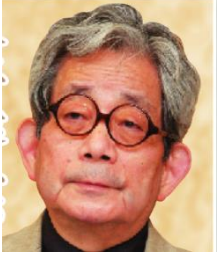
今の日本には政治はない、政治家には相手を非難する言葉しかない。物を言う力があるのは市民だと思ふことにした。情報はまるで「大本営発表」を聞いているようだった。過ちを何度繰り返すのか。原発は人間の手に負えないことがわかった以上いま止めるべきだ。経済が疲弊する？貧しくなる？経済大国である

必要はない！作れるだけの電力で暮らせる生活にすればいい。アフガンで中村哲氏が現地の人に「幸せとは？」ときいたとき、「家族が揃っていて、三度のご飯が食べられること」との答が返ってきた。被災地を思う。4枚の不安定なプレートに乗っている日本はささやかで平和でなければやっていけない。「世直し」する必要がある。その拠り所は憲法だ！！9条と生活権・人権。1人から始めよう。自立した1人が増えていけばどこかで繋がる。「火花からやがて炎が燃え上がる」・・・ロシアの農奴反対運動をしていた人がプーシキンに言った言葉。



憲法学者の**奥平康弘氏**は「原発は憲法違反である」と。13条個人の尊厳、25条生活権からみても。日本は「曖昧な国（by 大江）」だ。非核三原則も「日本の国是」でしかないという言い方をしている。

「自衛のために必要な最小限度の実力は『戦力』とはいわない」と解釈するから核武装も「必要」なら許すことになる。オーストリアのように憲法で核武装も原発も禁止し、非核三原則もはっきり書き入れなければダメだ。自衛隊は今「付随的業務」の救援活動をやって「自衛隊はやっぱりいい」と思われている。何故、迷彩服？民間的活動にふさわしい服を着て行き米軍や韓国軍と一味違って存在するという態度が欲しい。一方、平和憲法により、個別の論理を認める「憲法文化」はある程度できてきている。その質を高いものにしていかなければならない



大江健三郎氏は、

「Articulate＝はっきりものを言う」ことの大切さを思ったのは、学校で新しい憲法を読んだとき。前文に二回出てくる「決意する」という言葉がとても好きだった。「村の周りの大人はまじめに話すことも書くこともできない。お前は憲法という言葉で話さない」と母親に言われた健三郎少年は憲法という言葉で喋った。そしていじめに合い殴られたが「平和」で通した。だが「自分が殴られるのはいい。でも9条は？本当に外国は攻めてこないだろうか？」校長にきくと「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼（前文）」する人が必要なんだよ。できるか？」と。樋口陽一氏の言葉を引いて、法律を考えると、どういう事実がそれを支え意味を与えているのかを考える必要がある（「立法事実」「憲法制定事実」）。取り巻いている事実、心の中の事実・・・が憲法作成を支えてい

た。「決意する」必要があったのだ。日本軍の大きな加害の事実、その加害行為を受けた事実。原発事故が起きた今、もう一度「憲法制定事実」を考えよう。また、米国が「産業発展のため」と日本にウランを持ってきたのは、なんと反核の世論が広まった第5福竜丸の被曝の翌年であり、マスコミに踊らされた国民は「平和」利用を受け入れてしまったと知り、私はショックだった。

「呼びかけた私らの数は少なくなるけど、会はそれぞれの活動によって勢いを大きくしています（大江さん）」
「9条の会は7500以上になってきた。親芋から小芋ができるように。親芋はまずくなるのだけど大丈夫！（澤地さん）」今年「平和フェスタ」の副題「向き合おう生命、つなげよう世界」を思い、1人じゃない！と力が湧いてきた3時間でした。（二階堂まり 記）

<集会案内>

原 発 さ よ な ら 集 会

9月19日（月）祝日 明治公園 13:00～

呼びかけ人

鎌田 慧、大江健三郎、澤地久枝、瀬戸内寂聴、坂本龍一内橋克人

1000万人を目標に脱原発の署名活動も行います

詳しくは下記のサイトをご覧ください。

* さよなら原発 1000万人アクション <http://sayonara-nukes.org/>

* 署名用紙 <http://sayonara-nukes.org/shomei/>

こんな危ない教科書が出ています！ 戦争を美化し、憲法改定を誘導する教科書が

この夏、各地の教育委員会で中学校の教科書を採択します。今年採択される教科書は、今の小学3年生から6年生までが中学生になった時に歴史教科書を、また、公民教科書は今の小学5年生から中学2年生が中学生になった時に使います。

採択の対象になっている教科書の中には、自由社や育鵬社のように、かつてのアジア太平洋戦争を「自存自衛の戦争」「アジア解放の戦争」と肯定的に書いたり、沖縄戦での「集団自決」も日本軍の責任をぼやかしたりしています。さらに「戦争の勝利を願う多くの国民はよく働き、よく戦った」と書き、私たち多くの国民が「もう2度と戦争はごめんだ」と思ったことにはつながらない書き方をしています。

日本国憲法9条の基礎には、先の大戦の悲惨な体験を踏まえた戦争への深い反省と、軍事力によらない平和構築の思想があります。それゆえ本来、自衛隊の「軍隊」としての実態を見直す努力が重要なはずで、ところが2社の教科書は、日本周辺で軍事的緊張が高まっているなどと危機感をあおり、自衛隊の戦闘機やイージス艦の写真を並べたうえ、平和憲法が占領下で作られたとか、国際貢献を阻害するとかいった口実で、逆に9条を「改正」する方向へ子どもたちを誘導しています。

自由社の教科書は「新しい歴史教科書をつくる会」が中心になって作り、育鵬社の教科書は「教科書改善の会」が中心になって作っています。これらの団体の背後には「日本会議」があります。つまり、自分たちの政治思想を教科書を利用して子供たちに注入しようとしているのです。

教育内容に政治を介入させないためには、教科書を学校の先生方の意向に基づいて採択する必要があります。

狛江市教育委員会での教科書採択は8月3日（水）午後2時から、5階特別会議室で行われます。傍聴しましょう。

（教科書東京ネット所属・小俣三郎）

< 御 礼 >

4月に会費納入のお願いをいたしました。その後、多くの方から会費やカンパをいただきました。お蔭様で今年度の活動も順調に行うことができます。

皆様から寄せられたお気持ちを無駄なく活かすよう努力してまいりたいと思います。

お一人ずつに御礼のお便りをするのができませんので、誌上を借りて御礼申し上げます。（寺尾 安子記）

